

人間ドックの中核施設へ

大山診療所

診療所特別会計は、町内3カ所の診療所を運営するための会計であり、平成27年度は約3億6000万円の経費で運営された。どの診療所も診療実績は年々減っている。そのようなか、平成28年度から人間ドックを開始するため、約2000万円の医療機器を大山診療所に導入した。



健診センター化された大山診療所

討論

【反対：近藤議員】

固定医の確保の見通しがつかないまま、大山診療所を国保加入者の人間ドックを受け入れる健診センター化し、多額の設備投資をして赤字を拡大させたことは問題である。

平成27年度診療所特別会計決算

質疑

【西尾議員】

大山診療所は赤字が増えている。診療者数も全体で減っている。このまま診療所が維持できるのか。

【健康対策課長】

人間ドックなどの検診中核施設として、経営の改善をはかりたい。

【杉谷議員】

一般会計からは大山診療所には1400万円の補てんということがあるか。

【健康対策課長】

国民健康保険から特別調整交付金が360万円ほど入っている。また、起債返済額の半額を一般会計から入れている。それを除いたものが約1400万円である。

【近藤議員】

大山診療所の国保の診療収入は少し増えているが、社会保険や後期高齢者の診療収入と合わせると約200万円の減となっている。分析は。

【健康対策課長】

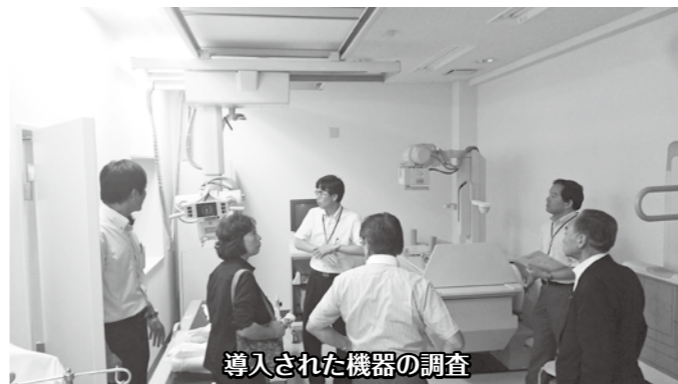
3診療所とも、後期高齢者の方が介護施設に入所するものが多くなったからである。

【加藤議員】

大山診療所の受診者増加の働きかけは。

【健康対策課長】

区長さんを通じて、家族、知り合いなどに受診をお願いしている。



導入された機器の調査

健康対策に疑問符

決算審査特別委員会

決議案提出へ

議会では、これまでも多様な角度から町民の健康や医療などに大きな課題があるとして、特別委員会も設置して審議を行ってきた。しかし前年度に比べ、地域、集落、個々の健

康意識などが前進したとは感じられない。

決算審査特別委員会では「実効の上がる健康増進政策」の決議を本会議に上程することを賛成多数で決めた。

徴収方法の見直しを

滞納整理に関しては、昨年度の決算審査でも実効ある取り組みを強く求めた。

しかし、27年度決算でも水道使用料などでは大きな進展を見ることができなかった。

そこで決算を認定するにあたり、使用料などの未収金対策は、体制を含めた徴収方法の見直しの検討も必要ではないかと指摘し、付帯意見を付けることにした。



健康づくり3B体操

監査委員の評価と指摘

代表監査委員 後藤洋次郎
議会議長 西山富三郎

【指摘事項】

事務管理の徹底を

「ふるさと納税ワンストップ特例制度」を利用した寄付者に対し、本来なら1月11日以降1月31日までに相手方の自治体に対し「寄付金税額控除に係る申告特例通知書」を送付することになっているが、この通知書の発送作業が2月中旬

にずれ込んだ。今後遅れることのないよう、事務処理体制の整備、事務管理の徹底をはかられたい。

【監査意見】

事業・事務の見直しを

所期の目的を達したと見込まれる事業や費用対効果が乏しい事業や事務は、廃止や期限を設けた実施が望まれる。

また、関係団体あるいは民間業者への外部委託も、引き続き拡大・促進をはかっていく必要がある。

交際費に透明性を

町および議会の広報、広聴については、他の自治体と比較して相対的に高い水準にあると評価できるが、一部自治体で行われているような町長・議長交際費の支出状況の公表は行われていない。支出基準の設定と交際費の支出状況の公表が望まれる。



町長に意見を伝える監査委員